

せたいにんじよう
世態人情を描く

美濃加茂市・早稲田大学 文化交流事業 共催展

岡本一平展

美濃加茂市古井町は、大正から昭和にかけて人気を博した漫画家・岡本一平(1886～1948)の終焉の地です。

東京藝術大学に在学中から東京朝日新聞に漫画を描き始めた一平は、大正元年に同社に入社します。以降、社会面にコマ画を描き、やがて漫画に短い文章を添えた「漫画漫文」という新しいスタイルを生み出します。機知に富んだ洒落な漫画と短文は、当時の人々の心を捉えました。また、日本初の漫画団体を結成し後進を育てるなど、今に至る漫画の地位を確立させた一平の功績は大変重要です。



岡本一平

一平の活動は漫画や絵画だけではなく、小説や脚本など文学や演劇の世界にも広がりを見せました。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館には、一平が昭和4年に東京朝日新聞に連載した役者絵集「新水や空 俳優の部」の原画が収蔵されています。この作品は、美濃国加茂郡太田村(現美濃加茂市)出身の坪内逍遙(1859～1935)が執筆を依頼したことが契機となって生まれました。逍遙と一平そして一平の妻・岡本かの子を交えた交流に触れつつ、作品成立の背景を紹介します。



「新水や空 俳優の部」(東京朝日新聞)「新水や空 俳優の部」の原画が収蔵されています。

また一平は、昭和20年に岐阜県加茂郡西白川村(現加茂郡白川町)に疎開します。翌年には俳句や川柳、狂俳の要素を織り交ぜ自由に表現する「漫俳」を提唱、同年に加茂郡古井町(現美濃加茂市)へ転居し文芸活動を展開しています。この展覧会では多数の漫画やその原画、肉筆画や漫俳資料、遺品などを展覧し、一平の足跡を辿ります。一平は「漫画とは世態人情を穿つ絵をいふ」と述べています。庶民の生活、時事のニュースなど当時の様々な世相を捉え、軽妙に風刺しつつ、おかしみのある漫画を描き続けた一平の世界をお楽しみください。

本展は、早稲田大学と美濃加茂市の文化交流の一環として行われ、美濃加茂市民ミュージアムでの開催につき、早稲田大学「125 記念室」で開催いたします。

【主催】美濃加茂市民ミュージアム・早稲田大学(文化推進部)

関連事業 美濃加茂会場

■ミュージアムフォーラム「漫画史のなかの岡本一平」

日時：2013年2月17日(日) 14:00～15:30
会場：みのかも文化の森 研修室
講師：湯本豪一氏(漫画史研究家)
内容：漫画のバイオニアと呼ばれる岡本一平。一平が活躍した時代の日本の漫画界の様子や一平の歴史上の位置づけ等についてお話いただきます。
定員：42名
聴講料：無料
申込方法：当日 13:30 より受付

■ミュージアムイベント「バスツアー：岡本一平ゆかりの地」

日時：2013年3月10日(日) 12:00～16:00
集合場所：みのかも文化の森 エントランスホール
講師：黒野こうき氏(地方史研究家)
内容：「岐阜の岡本一平 聖家族からの解放」の著者・黒野こうき氏による案内で、東京から疎開した一平が漫俳運動を始めた加茂郡白川町、一平の居宅を復元した系遊庵(美濃加茂市内)など、一平ゆかりの地を巡ります。
定員：20名
参加料：500円
申込方法：事前申込(申込期間：2月1日～2月19日必着)
はがき、ご来館、文化の森ホームページ講座申し込み専用フォームのいずれかの方法でお申し込みください。

■ミュージアムトーク

日時：2013年2月10日(日)、3月9日(土) 14:00～15:00(両日とも)
会場：みのかも文化の森 緑のホール
内容：当館学芸員による岡本一平の「新水や空」のスライドレクチャーの後、展示室をご案内いたします。
参加料：企画展観覧料

《白隠画賛》美濃加茂市民ミュージアム蔵



《歳晚情景寄せ切れ》原稿
川崎市市民ミュージアム蔵



※美濃加茂会場のみ展示

■美濃加茂市民ミュージアムへのアクセス



- 鉄道：JR 名古屋線 美濃太田駅まで徒歩約40分、朝北口より徒歩約17分
- 自動車：東海環状自動車道美濃加茂ICより約5分、駐車場 174台

■早稲田大学大隈記念タワーへのアクセス



- JR 西武線「高田馬場」よりバス「早大正門行」10分
- JR 山手線「早稲田駅」より徒歩5分
- 池袋駅西口「早稲田駅」より徒歩5分